

## 平成25年度第2回木の文化を具体化する推進会議 摘録

◆ 日時：平成26年2月6日（木） 13:00～15:00

◆ 場所：京都ガーデンパレス 「桜」

◆ 出席者：以下参照

区 分	名 前（敬称略）	所 属	
委 員	青合 幹夫	京都府森林組合連合会 代表理事専務	欠席
	乾 康之助	京都木材協同組合 理事長	
	吉田 英治	京都市森林組合代表理事組合長	
	岩井 吉彌	元 京都大学大学院農学研究科 教授	
	北川 義晴	京北森林組合代表理事組合長	
	久山 多代子	森林インストラクター	欠席
	丘 眞奈美	京都ジャーナリズム歴史文化研究所 代表	
	中野 三郎	公益財団法人京都市森林文化協会理事長	
	橋本 直子	(株) HIBANA 代表取締役	
	吉川 哲雄	京の山杉人工房 モデル工房「木輪舎」 代表	
	内海 真弓	市民公募委員	
事務局	山本担当部長	京都市農林振興室	
	納谷課長	京都市農林振興室林業振興課	
	安藤係長	京都市農林振興室林業振興課	
	岸本担当	京都市農林振興室林業振興課	

◆ 当日資料：以下参照

資料 No.	資料名
	次第
	配席図
	出席者名簿
資料 1	本市の森林・林業の普及啓発の取組等説明資料
資料 2 - 1	六甲山森林整備戦略
資料 2 - 2	下川町パンフレット
資料 - 3	京都市における森づくり
参考資料	木の文化を具体化する推進会議開催要項
参考資料	第 1 回木の文化を具体化する推進会議摘録
参考資料	「京都市森林文化協会」、「京都伝統文化の森推進協議会」の連続講座等の紹介チラシ
参考資料	第 1 回木の文化を具体化する推進会議に関する新聞記事

1 挨拶 乾委員，橋本委員欠席

- 挨拶（山本部長），資料確認（安藤係長）
- 議長を岩井委員長として議事進行

2 議題

(1) 第 1 回会議のまとめ

(2) 本市の森林・林業の普及・啓発の取組

- 事務局から資料 1 に基づいて説明。
- 主な質疑応答及び意見
  - ・みやこ杉木の公共建築物での利用の一つとしてバスの駅があるが、どの様にしてそのことを市民に知ってもらうのか。
  - バスロケの画面で北山杉やみやこ杉木を紹介する計画である。
  - ・単に木を使っているだけではなく PR が必要である。
  - ・バスの駅は何ヶ所くらい、どこにできるのか。
  - 南太秦と太秦小学校前，清水道の 3ヶ所を計画している。産官学が連携して取り組んでおり，土地をお借りしてバスの駅を設置する。しっかりした木の建物を建てる予定である。
  - ・全部のバス停を作りかえるというものではないのか。
  - 交通局では，単にバス停ではなくバスの駅ということで，観光の視点や民間の協力を考

- えたビジョンを持った整備を計画している。そのビジョンの中でみやこ杉木を使用する。
- ・全部を木製にするのは構造計算上問題ないか。
- 建築基準法や消防法については、それぞれの基準を満たした構造を計算している。設計に関しては、京都大学の協力を得て実施している。
- ・土地は道路に面しているのか。
- 歩道に接している。
- ・林業振興のためにも進めて行って欲しい。
  - ・基本方針について、今回、京都市でも方針が策定され、木材利用の拡大が期待できる。供給側としては注文されてすぐには材が無いということを理解してもらいたい。大型公共事業では、分離発注をお願いしたい。製品を先に、そのあと本体工事発注といったようにしていただきたい。そうでないとせっかくみやこ杉木の注文があっても対応できない。来年度、京都府で実際に分離発注が行われる。初年度が原木と製品、翌年度に本体発注がされる予定である。京都市でも本庁舎建設の話が出てくるかもしれないが。相当量の木材が必要になるかと思う。その際には分離発注を考えていただきたい。そうでないとみやこ杉木はうまく流れないのではないかと懸念する。
  - ・非常に重要な課題だと思う。上京区役所は左京区役所の倍の木材を使う予定にもかかわらずゼネコンはなかなか発注しないが、どうする予定か。結局、外材とかを使うことになってしまう。しっかり考えないといけない。
  - ・非常に材の値が上がる時もある。山元はいいが、途中の製材所が負担を被るということになってもいけない。
  - ・山では出荷までに数箇月にかかる。また、まとまった材の場合、山の木の値が上がっても建材の値が上がらず途中の製材所が損をするようなことも起こらないようにする必要もある。
  - ・早い段階で情報を把握して出すようにして欲しい。
- 基本方針ができたということは、単発の話を個別にするというのではなく、京都市が全庁を挙げて市内産木材を活用していくという課題に取り組むことになる。建物を建てる前からではなく、計画段階から設計する側と建てる側が協議し、木材を利用する方向になっている。皆様から出た課題や意見も庁内会議でお話しさせていただく。
- ・大局的に使うというより、建物に大量に使わないといけない。上京区役所など3年前から話が出ていた。計画が出た段階から話ができないのかと思う。
- 規模の小さな建物でもあっても、数年前から予算要求する。その段階から設計する側と建設する側が木を使っていこうというシステムは、方針の策定によりできたと考えている。
- ・法律ができ、方針が決まりみやこ杉木の需要が高まっても、結局発注が遅くて材が揃わず提供できないことが起こるように思う。せめて3箇月から半年ないと、乾燥させたしっかりした材が供給できない。山側と発注側のギャップを埋めないといけない。ゼネコ

ンも電話1本で揃うと思っている。

- ・公共工事に参加する資格のある業者を集めて、木材についての勉強会を開くのも一つの方法だと思う。分離発注は当然というくらいの気持ちが必要である。勉強会に参加しなければ入札に参加できないくらいにしてもいいのではと思う。
  - ・外材や九州の材はそのような勉強会なしで十分対応できる。京都は林業の加工等の単位が小さく、それができない。これは京都の欠点なのではないのか。
  - ・欠点であるならクリアしなくてはならない。小さいことをするのではなくて、大きいことにどうやったら取り組めるか考えないといけない。
  - ・市内産の木材を使ってもらおうと思ったら供給する側も相当なエネルギーが必要で、その覚悟も必要。行政の理解も必要。手間暇がかかる。そのくらいの想いが必要である。
  - ・地元の原木をしっかりと加工場に運び、そこで加工したものを活用するという考え方もできる。割り切りの問題だと思う。
  - ・コストはかかるが、原木を売るというのも一つの考え方ではあると思う。そういう組立を考えてもらいたいと思う。
  - ・みやこ杉木のルールではそれは可能。揃えるまでの期間が短すぎるのが問題であり、製材したものをストックできたら一番良い。しかし、ストックするとその責任とか色々問題が出てくる。
  - ・お米などは備蓄米として一定量を蓄えている。木材ではそういうシステムづくりはできないのか。山に木はある。備蓄材という感じで、温暖化の防止からも、木を切り、森を若返らせるということは必要なのだから、何らかの流通や備蓄のシステムを考えればよいのではないか。
  - ・市場があるのだから、そこで原木を確保し、賃加工に持っていくシステムも考えられるかもしれない。
  - ・市場から市内産材を購入して加工すればよいが、市内産材は他府県の業者が競り落としてしまう。7割近くが他府県の業者が買っている。市内の業者が競り負けしないような補助でも考えられないものか。
  - ・高値で売れば山主が潤って山の整備は進むように思う。
- ストックヤードや製材所の必要性等大きな課題は十分認識し、京都木材協同組合の協力を得て、ストック情報システムも立ち上げた。身近な課題である分離発注の件、特記仕様書に明記する件等の課題について解決していきたいと思っている。しかしながら、公共事業で使う木材の量は多くはない。いかに民間建築において「みやこ杉木」を使ってもらおうかということで、京都市が率先して使っていくという姿勢を表したのが今回の方針である。気運は高まってきているので、できることから、進めたいと思う。
- ・この方針について否定しているのではなく、もっと前に行って欲しいと思って皆さん発言されているのだと思う。公共事業で使うことで民間に波及した場合の供給体制をどうするかを考えておかなければいけない。

→ストックヤードや製材所が必要になることも予想される。そうすると民間企業の話になる。民間企業の事業リスクを検討する必要がある。民間利用を考えなければ大きな需要は生まれない。

- ・とにかく現実的な議論が必要。例えば、原木を市場に出してとにかく市内産木材を流通させることが重要である。

### (3) 他都市の市民参加の事例紹介

➤ 事務局から資料2-1に基づいて「六甲山森林整備計画」、資料2-2に基づいて「下川町の取組」について説明。

➤ 主な質疑応答及び意見

- ・下川町はいろんなことに取り組んでいるが、本市で同じことをするのは難しい。

→全国でも先進的な取組をしている町である。

- ・向かっていく姿勢は素晴らしいと思う。下川町で全部完結している。よそに出ていたお金が中で回っている。小さい町だからできたと思う。

- ・採算はとれているのか。

- ・とれていると聞いている。補助金もたくさん活用している。良いところを学んだらよいと思う。

- ・京都市では環境税は創設していないが、神戸市の予算の内、環境税はどのくらいの比率になっているのか。京都市でも環境税を作ってはどうか。

- ・京都市で環境税を導入すると相当の金額になると思うし、京都市が森林を買い取り、林業を営み、そこから木材を供給するとかできたら良いと思う。雇用も生まれる。

- ・環境税で京都市が山を買って整備を進めるのなら、市民の理解も得られるのではないか。

- ・京都市においては企業CSRの視点からの参加についてはどの様に考えているのか。

→京都市では、「京都みどりプロジェクト」という取組がある。これは、三山の主にナラ枯れ対策に対して企業の資金協力、PR協力等を得て活動を実施している。

- ・どれくらいの規模で参加してくれているのか。

→トータル額で年間500万円前後。

- ・「四季・彩りの森復活プロジェクト」と併せてもっと「京都みどりプロジェクト」の活動を強化すべき。

### (4) 本市の市民参加の取組

➤ 事務局から資料3に基づいて「本市の市民参加の取組」について説明

➤ 主な質疑応答及び意見

- ・京都伝統文化森推進協議会を中心に市民協働による森づくりについてPR活動も含めて説明があったが、これから色々な形での森づくりを考えていかなければならない。

- ・キャラクターについては公募した。「くーりん」は、高校生が物語を持って応募してくれ

たもので、「きょうだらぼっち」はデザイナーの方からの応募だった。今後はキャッチコピーを考える予定である。京都にたくさんある製造業の方にこのマークを使ってもらおう。それが例えばお弁当の包装紙として全国で有名になり広く全国から寄付を集めることができないかというようなことを考えている。JR 西日本のパンフレットに入れてもらうことができた。3つの活動に共通してこのキャラクターを使っていたらと思う。

- ・市民の方を巻き込むということで、資料にあるチラシを見た時にデザインの力は重要だと思った。本格的なデザイナーを入れて市民の皆さんに対する PR 活動をしてはどうかと思う。六甲山森林整備計画の4ページにも「六甲山ブランド」の形成の手法としてデザインを挙げている。森林・林業・木材についての PR では、ホームページなども、まだしっかり整っていないような印象がある。
- 参考までに京都伝統文化の森推進協議会では京都造形芸術大学の西先生のお知恵を借りながら活動している。
- ・プロのデザイナーさんが入るとまた違ったものができるかもしれないと思う。
  - ・参考までに参加者は、森づくり活動が多いときで40名程度、少ない時で20名程度。教養講座の方は、70名程度の参加をいただいた。

#### (5) その他

- ・どのような団体から協力をいただいているのか？
- 「京都伝統文化の森推進協議会」では清水寺、青蓮院、高台寺、祇園商店街から資金的な協力をいただいております、「みどりプロジェクト」の取組では、企業や観光協会からも協力いただいております。
- ・「京都伝統文化の森推進協議会」の対象となっている山は誰のものか。
- 全て国有林。
- ・国産材があまり使われずに外材が使われているという統計は良く見るが、京都市内でどのくらいの国産材が使われているのか、そういった統計はあるか。
- 京都府の統計になるが、国よりも国産材の利用割合が大きくなっていったかと思う。市内については特にそのような統計は揃えていない。流通が複雑で京都市内というくくりでは統計が取りにくいということかと思う。
- ・フジタホテルの跡地利用にどのくらいの国産材が使われたのか気になった。また、それに付随してリフォーム的な内装に利用できないのかなと思う。
- 京都市では、住宅と PR 効果の高い店舗の新築やリフォームの際にみやこ杉木を25万円分提供する市内産木材供給対策補助という事業を実施している。
- ・26年度の検討内容として京都市北部林業地域の経済林について記述があるが、京都府でも同じことが検討されている。このような取組については府市協調で事業を進めていただきたいと思う。
  - ・同じような話が、鴨川の関係で京都府と話をしたときにあった。北部のことを考えるの

であれば、山と川をセットで考えないといけないと言いつけてきた。きれいな川はきれいな山がないと生まれえない。川のことを考える方たちに山のことも併せて考えてもらえるよう動かしていくと良いと思う。そうすれば山側も勢いがつく。そういった市民との連携もしてもらいたいと思う。

- 針葉樹の家具作りに挑戦している。学校の図書館の整備を針葉樹で作った机等で行って、いこうという試みを始めた。頑張っ、色々な所に働きかけることが大切だと思ふ。
- バス停の件では天神川ターミナル等では是非、木を使っ、欲しいと思ふ。